

学 内 広 報

2003. 2. 26
 東京大学広報委員会



東洲勝月画「米船渡来旧藩士固之図」(三枚続) 東京大学史料編さん所蔵

今年のパリー来航(1853年)から150年にあたる。この絵は、その後30年以上も経ってから描かれたものであるが、パリー来航に備える幕府側の様子を描いた貴重な絵として知られている。

(6 ページに関連記事)

目 次

一般ニュース	2
評議会(2月18日(火))承認事項・報告事項、東京大学男女共同参画基本計画(案)の骨子について、5月16日(金)に意見交換会を開催します、第2次学力試験(前期日程・後期日程)の出願受付終わる、第2次学力試験(前期日程)及び外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる	
部局ニュース	5
退官教官の最終講義、大井町フォトフェスティバルを開催、東洲勝月画「米船渡来旧	

藩士固之図」(三枚続)	
掲示板	6
東京大学総合技術研究会の開催のお知らせ 大学院人文社会系研究科フランス文学教室 主催の講演会のお知らせ	
噴 水	7
色覚バリアフリーの広がり、社会から期待される科学者像	
討 報(菅野昌義名誉教授、上村勝彦教授)	8
事務連絡(人事異動(事務官))	10
広報委員会	11
淡青評論「柏キャンパスの先住民」	12

≡ 一般ニュース ≡

評議会（2月18日（火））承認事項

東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正

大学院経済学研究科、大学院工学系研究科、医科学研究所、大学院医学系研究科、医学部、大学院農学生命科学研究科、社会科学研究科、社会情報研究所、生産技術研究所、大学院教育学研究科、地震研究所、物性研究所及び海洋研究所では、既に導入している教員の任期制の教育研究組織の見直しに伴う所要の改正、また、大学院薬学系研究科及び分子細胞生物科学研究科では、新たに教員の任期制を導入する教育研究組織を定めることとするため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行し、同日以降に任用される者について適用する。

東京大学学部通則の一部改正

「国立学校における入学料の免除に関する取扱要領」（昭和50年3月25日文部大臣裁定）の一部改正に伴い、入学料の徴収猶予制度が拡充されたため、所要の改正が行われた。

附 則

- 1 この規則は、平成15年2月18日から施行する。
- 2 平成15年3月31日以前に入学した者については、改正後の東京大学学部通則第49条、第49条の2、第49条の3、第49条の4、第55条及び第58条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京大学大学院人文社会系研究科規則の一部改正

学位論文の題目届の提出期限をより明確にして、学生が所定の手続きを遵守しやすくするため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

東京大学大学院新領域創成科学研究科規則の一部改正

平成15年度から情報生命科学専攻を設置するに当たり所要の整備を行い、併せて環境学専攻人間人工環境コース医工連携教育研究プログラム履修者に博士（科学）の学位を授与するため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

東京大学大学院学則の一部改正

大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に基づき、科目履修生を本学大学院に受け入れられるようにするとともに、平成15年度から新領域創成科学研究科に情報生命科学専攻が設置されるため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

評議会（2月18日（火））報告事項

大学間学術交流協定

- ・東京大学とアジア工科大学院（タイ王国を本拠地とする）との間における学術交流に関する大学間協定の締結
- ・東京大学とアリゾナ大学（米国）との間における学術交流に関する大学間協定の更新

外部資金等の管理の改善に関する検討委員会（仮称）の設置

目的

- 第1 東京大学における科学研究費補助金、厚生労働科学研究費補助金、受託研究費、委任経理金等の外部資金の管理及び執行方法を改善するため、総長の下に検討委員会（以下「委員会」という。）をおく。

組織

- 第2 委員会は、委員長及び委員をもって組織する。

委員長

- 第3 委員長は、副学長のうちから総長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

委員

- 第4 委員は、次に掲げる者に総長が指名する。

- (1) 研究科長 若干名
- (2) 研究所長 若干名
- (3) 広報委員長
- (4) 事務局長
- (5) 総務部長
- (6) 経理部長
- (7) 研究協力部長
- (8) その他総長が必要と認めた本学教職員

事務

- 第5 委員会の事務は、総務部人事課、経理部主計課の協力を得て、研究協力部研究協力課が行なう。

東京大学男女共同参画基本計画（案）の骨子について、5月16日（金）に意見交換会を開催します

東京大学男女共同参画推進委員会委員長 廣渡清吾

本学では昨年から、UT21会議（東京大学21世紀学術経営戦略会議）のもとに「男女共同参画推進委員会」を設置し、「東京大学男女共同参画基本計画」（案）の策定に向けた活動を行ってきました。基本計画は2003年度前半を目途として最終決定する予定ですが、その策定にあたっては広く本学の構成員から意見を募り、それを反映させてまいります。

その一環として昨年11月20日には、基本計画案に向けた学生・大学院生の意見の公聴会を開催しました。5人の学生・大学院生が貴重な意見を発表され、参加者からの質問や意見、男女共同参画推進委員会メンバーからの説明等、双方向の意見交換が行われました。また、10月から12月にかけて、各部局に対して基本計画案の策定に関するヒアリングを行ったところです。

男女共同参画推進委員会では、これらの意見も踏まえて3月中旬に基本計画案の骨子を取りまとめ、公表して広く意見を募る予定です。意見聴取期間は6月上旬までを予定していますが、双方向の意見交換も行えるように、5月16日（金）午後に本学の構成員と委員会との意見交換会を開催したいと考えています。

4月以降、学内広報、ホームページ等に公表される基本計画案の骨子をご覧いただき、多くの方が、意見を寄せるだけでなく、意見交換会にも参加して下さることを期待します。

東京大学男女共同参画基本計画（案）
の骨子に関する意見交換会

日 時 平成15年5月16日（金）
午後1時から2時間程度
場 所 大講堂（安田講堂）

第2次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる

平成15年度第2次学力試験の願書受付が1月27日（月）から始まり、2月5日（水）に締め切られた。

志願者数は次のとおりである。

前期日程入学志願者数等

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	前 年 度 の 倍 率
文科一類	544	1,701	3.13	3.20
文科二類	327	1,069	3.27	3.64
文科三類	432	1,487	3.44	3.02
理科一類	1,025	2,883	2.81	2.61
理科二類	492	1,899	3.86	4.19
理科三類	80	362	4.53	5.08
合 計	2,900	9,401	3.24	3.23

後期日程入学志願者数等

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	前 年 度 の 倍 率
文科一類	61	1,130	18.52	19.82
文科二類	38	663	17.45	13.16
文科三類	53	957	18.06	14.15
理科一類	122	2,124	17.41	13.90
理科二類	59	661	11.20	9.93
理科三類	10	184	18.40	15.60
合 計	343	5,719	16.67	14.28

第2次学力試験（前期日程）及び外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる

本学の平成15年度第2次学力試験（前期日程）の第1段階選抜が行われ、2月12日（水）午後、本郷構内において合格者が発表された。また、外国学校卒業学生特別選考第1次選考も行われ、1月下旬に各人あて通知された。

これにより、2月25日（火）・26日（水）及び27日（木）に、本郷・駒場の両地区試験場において行われる前期日程の第2次学力試験及び外国学校卒業学生特別選考第2次学力試験の受験者数が確定した。

なお、各科類の合格者数は下表のとおりである。

前期日程第1段階選抜結果

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	第1段階選抜		合格者科類別成績		
				合 格 者	予告倍率	最 高 点	最 低 点	平 均 点
文科一類	544	1,701	3.13	1,632	3.0	784	454	630.16
文科二類	327	1,069	3.27	981	3.0	756	567	640.70
文科三類	432	1,487	3.44	1,299	3.0	747	552	637.22
理科一類	1,025	2,883	2.81	2,568	2.5	765	610	671.53
理科二類	492	1,899	3.86	1,723	3.5	762	571	651.92
理科三類	80	362	4.53	320	4.0	783	499	684.89
合 計	2,900	9,401	3.24	8,523				

外国学校卒業学生特別選考第1次選考結果

科 類	第1種（外国人）		第2種（日本人）	
	志願者数	第1次 選考 合格者	志願者数	第1次 選考 合格者
文科一類	7	3	20	12
文科二類	35	10	15	5
文科三類	9	4	32	12
理科一類	43	12	15	8
理科二類	13	5	12	7
理科三類	4	2	8	5
合 計	111	36	102	49

≡ 部局ニュース ≡

退官教官の最終講義

このたび、本学を退官される方々の最終講義・講演等の日程と題目をお知らせいたします。

分子細胞生物学研究所

高橋秀夫 教授（分子情報・制御大部門）

3月17日（月） 15：00～

農学部2号館2階 化I教室

「分子遺伝学の勃興と氾濫の時代に学んで」

海洋研究所

平 啓介 教授（海洋物理学部門）

3月25日（火） 15：00～16：00

海洋研講堂

「海流の係留観測－研究船乗船の思い出」

木村龍治 教授（海洋物理学部門）

3月25日（火） 16：00～17：00

海洋研講堂

「流体力学から見た地球環境」

大井町フォトフェスティバルを開催

大学院情報学環・学際情報学府では、地域連携プロジェクトとして、大井銀座商店街振興組合をはじめとする東京都品川区大井町地域に住み、働き、学ぶ方々とともに、大井町の活性化をめざす「大井町プロジェクト」（代表 原島博大学院情報学環長、プロジェクトリーダー 馬場章助教授）を行なっている。このプロジェクトは、情報学環の教官と学際情報学府学生とによる情報学の実践的研究の場としても位置付けられている。

大井町プロジェクトは、2002年12月1日のりんかい線全線開通に伴う新しい大井町駅開業を記念する大井フェスタの一環として、大井町フォトフェスティバル「なつかしい未来－大井町」と題する写真展を開催した。この写真展は、大井町の人々が自身で撮影した昭和30年代の写真を中心に展示して、地域の人々とともにかつての大井町を振り返り、将来の町づくりを展望しようという企画であった。

12月1～10日は大井銀座商店街を会場として、商店の店頭や店内に約100点の写真を出し、あわせてスタンプラリーを実施した。街中に展開する新しいタイプの写真展である。また、商店街の空き店舗を利用して、大井町の古い写真の中に現在の見学者が融合するバーチャリアリティ「大井町タイムスライダー」を披露して見学者の関心を集めた。これには322人の見学者が参加して、プリントアウトされたセピア色のバーチャル写真を持ち帰った。6～10日には、JR大井町駅前の品川区総合区

民会館きゅりあんでも約100点の写真を展示した。ここでも、たんに写真を展示するだけでなく、大井町の古い写真を利用してスライドショーを上映した。会期中大雪に見舞われたにもかかわらず、きゅりあん会場には、地域の小中学生をはじめとして841人が訪れた。今回の写真展は、株式会社堀内カラーなどの協力を得て成功したものであり、大学・地域・産業界が連携した取り組みとしても注目される。

なお、写真展の開催と同時に、ウェブサイト「なつかしい未来 大井町」も開設している（<http://www.ooi-machi.jp/>）

大井町プロジェクトでは、大井町の活性化のために、町のソフトウェアの側面から今後も創意あふれた事業を展開する予定であり、学内からの参加者を募っている。お問い合わせは大学院情報学環歴史情報論研究室（馬場研究室、内線25984）まで。



きゅりあん会場を見学する大井町の小学生



空き店舗を活用した「大井町タイムスライダー」

（大学院情報学環）

東洲勝月画「米船渡来旧藩士固之図」(三枚続)

今年はペリー来航から150年にあたる。ペリーは嘉永6年6月(1853年)浦賀に来航し、米国大統領フィルモアの国書を差し出した。彼は、翌安政元年正月再び江戸湾に現われ、2月横浜での応接を経て3月和親条約締結に成功した。

この絵は、おそらく横浜応接所へ来航するペリー艦隊とそれへの警衛にあたる武士たちを念頭に、描いたものである。ペリー来航に備える幕府側の様子を描いた貴重な絵として知られるが、30年以上も経っているから、蒸気船が外輪船でないなど、一見してすでに史実にあわなくなっている。

数値地図による景観シミュレーション(史料編纂所画像センター井上聡さんのご教示)を実行してみると、この錦絵に見える景観は、横浜の対岸の旧神奈川宿付近から横浜方面を眺めた際に得られる。神奈川の固は、安政元年正月に明石藩主松平慶憲に命じられている。同藩の陣屋は神奈川宿に連なる海手に設置された。しかしシミュレーションによれば、この海岸辺からは大楠山は見えないようなので、おそらくは神奈川宿裏手の権現山に連なる高台から見た景観を、この地に据えられた陣所での警衛に重ね合わせた構図、ということができよう。当時権現山はペリー艦隊見物の格好の展望台であったという。

ところで、その後横浜開港に備え、この地に台場が築かれる。岩倉使節を送った砲声はここから轟いた。その砲台の運命を左右する出来事が1889年に開始された。アメリカから返還された下関賠償金を基に、横浜港の修築が始まったのである。この工事は同年9月に着工となった。この錦絵が刊行されたその時である。横浜港には防波堤が作られ、砲台の前には帷子川の排水のため馴導堤が築かれた。台場埋め立ては時間の問題であったという。

一見すると攘夷や排外意識を称揚するかのようなこの錦絵は、もしかすると、横浜港の修築記念かもしれない。攘夷運動の象徴的事件である下関戦争の賠償金が返還され、増大する貿易量に対応する港湾強化がそれによって実現するのである。「癸丑以来」と表現されるペリー来航に始まる攘夷の時代が終わり、海外発展の時代となった。1889年は、下関戦争から25年、日清戦争まで5年である。

表紙：東洲勝月画「米船渡来旧藩士固之図」
(1889年9月印刷発行)
東京大学史料編さん所蔵

(史料編さん所)

≡ 掲示板 ≡

東京大学総合技術研究会の開催のお知らせ

本研究会は全国大学・高等専門学校及び大学共同利用機関等の技術者が、日常業務で携わっている実験装置の開発、維持管理から改善、改良の話題に及ぶ広範囲な技術的研究支援活動について発表する研究会として技術官が企画しました。発表内容については、日頃の技術業務における技術開発の成果のみならず、開発しようと思った動機や開発途中におけるつまづき等をどのように乗り越えてきたか、また失敗についても参加者全員で討論できるような技術にかかわる内容となっておりますので、奮ってご来聴下さいますようご案内申し上げます。

日時：3月6日(木)13時～3月7日(金)17時頃迄

場所：大講堂(安田講堂)、理学部1号館、化学館、工学部1号館、5号館

問合せ先：<http://www.ut-tech.iis.u-tokyo.ac.jp>

東京大学総合技術研究会実行委員会

委員長 立川 統

大学院人文社会系研究科フランス文学教室主催の講演会のお知らせ

ボワチエ大学教授アンリ・セッピ氏の講演会を下記の要領で開催します。セッピ氏は、フランス19世紀後半の「詩句の危機」や散文の変質、またモデルニテの諸相をめぐって、近年斬新な研究成果を次々と発表されている気鋭の学者です。ぜひご来聴ください。

日 時 2003年3月17日(月)17時より

場 所 文学部(本郷キャンパス)法文1号館216番教室

題 目 Crise de vers et crise de prose(詩句の危機と散文の危機)

使用言語 フランス語(通訳なし) 入場無料

照 会 先 文学部フランス文学研究室
03-5841-3842

世 話 人 中地義和教授

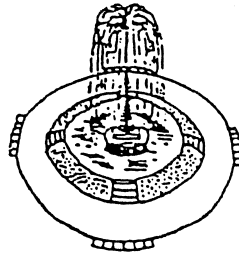
≡ 噴 水 ≡

色覚バリアフリーの広がり、社会から期待される科学者像

同僚の研究者と「色覚バリアフリー」運動というのを始めて1年半ほどになる。日本では男性の5%、女性の0.2%が色盲・色弱であり、欧米ではもっと多い。私も色盲だが、研究の上で支障を感じることは全然ない。ただ唯一困るのが、学会発表や論文で見かけるカラーの図に、見分けられない配色のものが多くあることである。

この問題は、図を作る側にわずかな配慮をお願いすれば解決できる。そこで、具体的にどこに気をつければよいのかを研究者向けにアドバイスする活動を始めた。予想外だったのは、これに対して研究者だけでなく印刷デザイナー、博物館関係者、OA機器や自動車メーカーの設計者など多くの方から、自分たちも参考にしたいと協力の申し出があったことである。

これらの方々と話していると、現実社会の問題に対して科学者が専門知識を活かして具体的な解決策を提案することに、大きな信頼と期待が寄せられているのを実感する。基礎科学の研究者は、とかく学会や学術誌で成果を発表すれば事足りると考えがちだが、私たちにはそれをもとに具体的な提言を一般社会に示してゆく力がある。その力を積極的に行使することも、科学者に期待されている大切な役割なのだと思う。



だがこれは両刃の剣でもある。私は生物学者ではあるが、本来の専門分野は色覚ではない。しかし多くの方は、私の発言を専門家の意見として尊重して下さる。これは一面では、科学者が専門外のことについて生半可な知識から不適切な意見を述べても、それが権威ある発言として一人歩きしてしまう危険があるということである。そのような過ちを犯さぬよう注意し、なおかつ自分の持つ知識を社会に対して積極的に役立ててゆくというバランスが、難しいが重要な点だろう。

参考：

<http://www.nig.ac.jp/labs/DevGen/shikimou.html>

(地下鉄路線図などの見分けにくい色の具体的な調査や、機械類の表示デザイン改善案のモニターなどを行なっています。色盲・色弱の教職員・学生やご家族の方で

ご協力いただける方がおられましたら、ぜひお早めに以下へメールでご連絡下さい。プライバシーは厳守いたします。)

分子細胞生物学研究所・細胞機能情報研究センター・高次構造研究分野 助教授 伊藤 啓
メール：itokei@iam.u-tokyo.ac.jp

≡ 訃 報 ≡

菅野 昌義 名誉教授

本学名誉教授の菅野昌義先生は、平成15年1月22日に78歳の生涯を閉じられました。菅野先生は、昭和26年に本学第二工学部冶金学科をご卒業後、東京芝浦電気株式会社を経て、昭和33年東京大学助手、昭和35年同講師、昭和37年同助教授に任ぜられました。昭和35年に創設された工学部原子力工学科の設立に尽力され、昭和47年工学部教授に昇任されました。工学部教授として原子力工学科の発展に多大のご貢献をなされて、昭和60年に東京大学を停年ご退官になられました。その後の6年間は長岡技術科学大学機械系の教授として、あるいは同機械系長として、さらには同大学長として、引き続き研究教育活動を幅広くご展開なされました。

菅野先生は、原子炉材料、核燃料に関する基礎的研究



を広い視点から探求されました。中でも、核燃料物質の新しい製造法や化学処理法に関する研究、海水からのウラン採取に関する研究、核融合炉材料の基礎的特性の研究などにおいては、官産学を含めての研究を先導的に指導されました。長岡技術科学大学ご退官後は、日中科学技术交流協会の会長として日本と中国の科学技術交流のために尽力されました。平成2年には紫綬褒章、平成12年には勲二等瑞宝章を受けておられます。

お若いころから、スキーと水泳をこよなく愛され、お年を召されても、若い学生とともに楽しまれました。人間味溢れる優しさと快活さをお持ちで、誰からも慕われました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、菅野昌義先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(大学院工学系研究科・工学部)

上村 勝彦 教授

東洋文化研究所の上村勝彦教授は病氣療養中のところ、平成15年1月24日ご逝去なされました。享年58歳でした。

先生は、昭和19年東京都にお生まれになり、昭和42年3月東京大学文学部を卒業後、ただちに東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程修士課程に入学され、昭和46年3月博士課程を中退なされた後、東京大学文学部（印度哲学）の助手になられました。その間、昭和46年11月から48年9月まで文部省派遣留学生としてインドのマドラス大学に留学されました。昭和53年4月國學院大学の専任講師、55年4月同助教授を経て、昭和61年本学東洋文化研究所の助教授として着任され、平成元年4月から教授としてご活躍されておりました。

上村先生の業績は多岐にわたります。その中心は古典インド詩学の研究でした。古典インド詩学においては、4、5世紀以来、詩や戯曲などの文芸作品と接して、人はなぜ感動を受けるのかという問に対するさまざまな解釈の試みがなされてきていました。その解答のひとつが『ナーティヤシャーシュトラ』において提出されたラサ（「味」、「美的陶醉」）の理論です。11世紀カシュミールで活躍した偉大な理論家アビナヴァグプタのラサ理論の形成の過程と、その本質がなんであったのかに関して、さまざまな古典インド詩学の理論家の諸説をたどり解明する作業に、修士論文以来専念なされ、その成果は、『インド古典演劇論における美的経験』に結実し、昭和63年文学博士になられ、平成3年鈴木学術財団特別賞を受賞されました。

また、先生は、9世紀後半のカシュミールの詩人であり、理論家であったアーナンダヴァルダナは、詩における直接的な意味とは異なる、暗示された意味が中心のな



役を演じる作品が、ドゥヴァニ（暗示）とよばれるという詩論を展開していますが、文法学、哲学の議論をも内包した難解な議論を確立し、アビナヴァグプタに大きな影響を与えていた、そのドゥヴァニ理論の形成と完成、それが後世に及ぼした影響をはじめ、そのドゥヴァニ理論の克明な分析に基づく解明を行うという精緻な研究は、平成11年『インド古典詩論研究』として完成され、その業績により平成13年中村元東方学術賞を受賞されました。

これら二つの大著は、40数点におよぶ個々の精密な分析を伴う学術論文に支えられたものですが、先生の業績はさらに数多くの古典インド文献の日本語への翻訳活動に示されます。

マキャヴェリの『君主論』に比較される古代インドの政治論である『カウティリヤ実利論』、また『カーマダキ・ニーティサーラ』、古代インドの宗教文学の最高峰ともいえる『バガヴァッド・ギーター』、古代インドの説話集『屍鬼二十五話』、『パンチャタントラ（アジアの民話12）』など枚挙にいとまがありません。

先生の翻訳活動の最大のものは、バガヴァッド・ギーターを一部として持ち、18巻10万詩節を数える世界最大の叙事詩『マハーバーラタ』の翻訳の仕事でした。先生は昭和60年代から翻訳に着手し、平成14年1月に第1巻が出版され、その年のうちに6巻まで逐次刊行されました。志半ばでのこの中断は悔やまれてなりません。

さらに昭和57年には、日本インド学仏教学会学会賞を受賞し、平成3年には日本翻訳文化賞を受賞されております。

先生の学問のご功績に預かってきました私達は、先生のあまりに突然なご逝去の報に接し、ただただ驚き、悔やまれるばかりです。先生の柔和なお人柄を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（東洋文化研究所）

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動（事務官）

発令年月日	氏 名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
15. 2. 20	竹 田 貴 文	学生部長	文化庁長官官房付（日本芸術文化振興会新国立劇場部長）

・平成15年2月20日付けで、事務局長 梶野 慎一、学生部長事務取扱を免ずる。

≡ 広報委員会 ≡

『学内広報』掲載写真の公募

次の要領で、「学内広報」に掲載する写真とその内容の紹介文を、広く本学関係者から募集します。

1. 内 容：東京大学に関するものなら内容は特に問いません。学内点描でも、一般の学内の人達になじみのうすい乗鞍や北海道などの各種施設の状況でも、観測船やスーパーカミオカンデなどの各種設備の概観でも、電子顕微鏡や高速瞬間写真などによる珍しい現象でも、なんでも結構です。
2. 形 式：特に問いません。
3. 説明文：500字程度の写真内容を説明する文章をつけ、所属・氏名を明記してください。
4. 締 切：特に設けません。随時。
5. 掲 載：原則として、表紙に掲載します。
6. 送り先：〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学 事務局総務課広報室
03(5841)2031

投書欄「噴水」にご意見を!!

「学内広報」には、皆様から投書を寄せていただく欄として、「噴水」が設けられています。この欄への投書要領は、次のとおりです。

- 1 本学における教育・研究活動に関する建設的な意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学 事務局総務課広報室 03(5841)2031

柏キャンパスの先住民

東京大学柏キャンパスに物性研究所、宇宙線研究所が移転してから3年の年月が経った。大学の建物が建設される前には、この辺りはすすきなどの雑草が人の身の丈よりも高く生い茂り、それが塀を越えて道路にまではみ出してまさに荒野という感じの佇まいであった。それが今では近代的な研究棟が立ち並び、道路や周囲の立木なども立派に整備されつつある。塀のない開かれた大学という基本設計に基づいて作られたキャンパスは池や林に囲まれ、向かいの柏の葉公園側から見るとたいへん美しい光景である。新領域創成科学研究科や他のセンターなどの移転も進みつつあり、本郷、駒場と並ぶ東大の3極構造の一角を担うキャンパスが新世紀に相応しい素晴らしい形で発展していくことはたいへん喜ばしい。柏においては、東大が地元から暖かく迎えられ、都内の他のキャンパスにはなかったようないろいろな交流が行われている。昨年秋の一般公開には



多数の人々が訪れ好評であった。これまで2回開かれた市民講演会も非常な盛況のうちに成功裡に終わった。今後も地元の市民や産業界などとの交流を是非大切にしていきたいものである。

さてこのキャンパスの中程にある物性研究所の低層実験棟（低温・多重極限実験棟）の廊下の一角には、子狸の剥製が置いてある。この狸は元々この土地に住んでいたが、可哀想なことに東大の建築が進むにつれて住処を失い、道路にさまよい出てきたところを自動車にはねられて死んだものらしい。

道路に放置されている遺骸を研究所の職員の一人が見つけ引き取ったが、物性研究所ではこの不憫な先住民に敬意を表して剥製にして保存しようということになった。ガラスのケースに入れられた子狸は、蓑と笠を纏い、右手に大福帳ならぬNature誌を抱え、左手に酒徳利ならぬ液体窒素のデュワー瓶を持って愛嬌ある姿で立っている。東大の建設の犠牲にはなったこの先住狸はこのキャンパスでの研究の進展を永遠に見守ってくれることであろう。

（物性研究所 三浦 登）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

◇広報室からのお知らせ

平成14年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL：<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

〔訂正〕

「学内広報」No.1255（2003. 2. 13）において一部誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

4 ページ右側21行目

（誤）3月18日（木）→（正）3月18日（火）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1256

2003年2月26日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎（3811）3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>